

2026年度 MIC事業計画書

(一社)メディカル・イノベーション・コンソーシアム(Medical Innovation Consortium, MIC)

事業計画

26年度も25年度同様、8K画像技術による遠隔医療(外科手術を含む)の拡大・展開を目指してまいります。そのために、これまでの画像情報伝送系(一般回線を用いる動画伝送システム)に加え、新たに国際標準となりました色再現(医療系)システムを含め、当社団法人会員様との共同開発継続による医療界・社会での認知度向上に努めてまいります。

以上の基本ゴール達成を促進するために、2026年度は以下4つの構想につき、その具体化を進めてまいります。

#1. (一社)MICが中核となって活動してまいりました上記の“超高精細画像医療応用研究会”と、アカデミア、特に臨床医学系学会(内視鏡外科学会、内視鏡学会、看護理工学会等)との緊密なタイアップを具体化すること。

#2. 定例の(一社)MIC総会・セミナーの開催を通じて、会員の皆様方の相互交流・情報交換を支援し、医療・ヘルスケア領域の一層の推進を図ること。なお、今後改めてご

案内をさせていただきますが、2026年度のMIC総会は本年9月29日(火)午後の開催を予定しており、その際には昨年と同様、“心肺蘇生実技トレーニング”(日本医師会等ご後援)を、MICセミナーに引き続き実施する予定であり、今回のインストラクターおよびセミナー講師は、防衛医大救急部の清住哲郎教授にお引き受け頂いております。MIC会員の皆様方におかれましては、是非セミナー、“心肺蘇生実技トレーニング”へのご参加をご検討下さいますようお願い致します(なお、今年の本実技トレーニングは、MIC非会員の方々へのご案内も検討致しております)。

#3. (一社)MICが提案し、すでに国際標準勧告として国連により採用されてきた8K超高精細医療画像の国際伝送方式(2018)と、今回新たに国際標準勧告案として正式採用(@国際電気通信連合 ITU)された8K超高精細画像遠隔伝送における色再現手法を併せた国際認証機関をMICに設立し、今後、8K画像遠隔医療システム(“伝送”プラス“色再現”)を導入する企業・医療機関・施設等に対し、技術システムチェックならびにその国際的認証を行うこと—この認証機関設立にあたりましては、その中核としてご協力いただける会員様を、現在の会員様、あるいは新規の会員様から募らせて頂く予定でおります。

#4. (一社)MICが提案し、国際標準勧告案となっている8K超高精細医療画像の伝送・色再現手法に、現在も進化の過程にある次世代技術を組み合わせる新世代の8K画像医療システムを可及的速やかに設計・構築し、

国内外の医療および社会への実装を目指すこと—ここで8K画像との一体化により8K遠隔医療(手術を含む)の意義を大きく高め得る次世代技術としては、以下2つのものが挙げられます。すなわち、1)高精細画像機器として、(従来の内視鏡等に加え)超音波診断装置の導入・展開も視野にいれること、および2)超高精細画像機器にて初めて視認し得るような微細対象物をも知覚・操作し得る機能(触覚等)を備えた装置・機器を開発することであり、これら2点の具体的検討はMICにて既に始められております。一方、これら超高精細画像技術の一層広範な普及・展開を考えた場合には、今後の課題として以下の2点につきその検討に着手することが不可欠と考えられます。その2点とは、1)8K超高精細画像情報の判定精度および質感向上を図るためのAI(人工知能)、AR(拡張現実)・VR(仮想現実)等の導入、および、2)かかる超高精細画像情報伝送系の一層の進化を図るうえでの“8K画像と5G/6G技術との一体化”です。いずれも2026年度には、MIC会員様との連携を視野におきつつ、このような革新的システム・デザイン的设计・イノベーション、さらにその国際標準化に取り組んでまいる予定でおります。

以上